

私とワーク・ライフ・バランス

「仕事と育児の両立」

監査室 監査係長 上野 智博



平成30年11月22日長女、律が誕生しました。
初めての育児のため、私自身が経験したいという思いと共に、夫婦の両親ともに他県住まいであり、病気により子育てに協力が望めない状況、そして妻も帝王切開での出産予定となったことから産後のケアが必要であると考え育児休業(平成30年12月10日～平成31年1月31日)を取得しました。
休業前の準備については、2か月ほどかけて定例業務の予定を休業開始前に完了するよう設定する等、関係部局の協力により進められました。
妻の体調が悪化し予定日よりも早い出産となりましたが、業務の引継についても上司、同僚の協力のおかげであわただしいながらも滞りなく行う事ができ、周囲の協力のもと育児に専念することが出来ました。
思い返せば出生から2か月、夫婦揃って育児を経験することで夫婦の絆、親としての自覚も生まれ、一日一日と成長するわが子と過ごすかけがえのない時間を得ることが出来たと感じています。

「イノベーション創出をリードする」茨城大学女性研究者ロールモデル集

女性研究者支援および次世代研究者の育成を目的として、ライフイベントと研究の両立を図る研究者を紹介する「茨城大学女性研究者ロールモデル集」を平成30年12月に発行しました。誌面に登場した方々からコメントをいただきました。

理工学研究科(工学野) 助教 山内 紀子

昨年2月に茨城大学の助教に着任して1年がたちました。これまでやってきた研究をさらにステップアップさせるとともに、新しい研究テーマを模索しています。ロールモデル集の原稿が出来上がっていく過程で、これまでの自分とこれからの自分に真摯に向き合うことができました。10代20代に学生たちには、さまざまな出会いを大切に、まわりの方々への感謝の気持ちを忘れずに、自分の目指す道を進んでほしいと思っています。

農学部 助教 高瀬 唯

学生の皆さんの中で、研究やキャリアを積むことに対する悩みや、将来に対する漠然とした不安を抱えている方は少なくないと思います。学生の皆さんから見たら、駆け出しの若手研究者である私は「ちょっと先の未来」の1つかもしれない。皆さんが将来に向けて一歩踏み出す際に、今回の記事が少しでも役に立つと嬉しいです!

理工学研究科量子線科学専攻 博士後期課程2年 神代 紗央理

研究者を目指すにあたり、今何をすべきなのか、何を心得るべきなのかを先生方からお伺いすることができ、将来に対して抱いていた不安が解消されました。これまでの経験をもとに、お話をいただいた先生方には大変感謝しております。ありがとうございました。

女性研究者支援・養成の取組に関する意識調査

常勤教員を調査対象とした意識調査(ウェブアンケート)を実施いたしました。本学の女性研究者支援・養成に関してだけでなく、女性限定公募などの具体的な取組についても、高い理解と支持が得られていることが示されました。

調査期間/平成30年9月26日(水)～10月3日(水)
対象/常勤教員(およそ640名)
回答者数/101名(男性62名 女性39名)

問 本学が、ワーク・ライフ・バランス(仕事と子育て・介護の両立)に係る環境整備や、女性研究者の研究力向上と女性リーダー育成を推進することについて、どのように考えていますか。



問 本学が、女性研究者の人数を増やすための取組を推進する必要があると考えますか。



問 本学では、女性研究者の人数を増やす具体的な取組としてポジティブ・アクション(女性限定公募、女性の積極的採用)を実施しています。この取組について、どのように考えていますか。



図書・DVDの貸出について

ダイバーシティ推進室では、ワーク・ライフ・バランス、育児・介護、キャリアアップ等に関する図書やDVDの貸出を行っております。貸出し期間は、原則2週間です。学内の方ならどなたでも利用できます。ぜひご利用ください。詳細は当室HPをご参照ください。

編集後記

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の事業計画の3年目を迎え、折り返し地点となりました。これまで当室の活動にご協力いただいた皆様にご心より御礼申し上げます。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

平成30年度に行った主な行事と女性研究者への支援についてご紹介します 平成30年度下半期行事報告

【茨城大学】「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(特色型)」中間総括シンポジウム「戦略としてのダイバーシティ推進とイノベーション創出に向けて」を開催

日時:平成30年12月18日(火)13:30～15:30
会場:茨城大学図書館3階ライブラリーホール
[VCS接続会場]工学部E1棟第2・3会議室(日立) 農学部第一会議室(阿見)

参加者:81名

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(特色型)」の中間総括シンポジウム「戦略としてのダイバーシティ推進とイノベーション創出に向けて」を開催しました。本年度が6年間に及ぶ事業計画の中間年にあたることから、本学の3年間の取り組みや成果を報告するとともに、大学戦略としてのダイバーシティ推進のあり方と今後の展望を描く契機となりました。

冒頭、挨拶に立った文部科学省科人材政策推進室長の楠目聖氏は、「科学技術・学術の分野においても、研究者コミュニティの持続可能性を確保し多様な視点や優れた発想を取り入れた科学技術イノベーションを活性化していくためには、女性研究者の登用と環境整備が重要な課題となっている。引き続き茨城大学の持つ強みを生かしながら、充実した取組を進めてほしい」と述べられました。

基調講演では、名古屋大学副理事(男女共同参画担当)の東村博子氏が「組織活性化の戦略としてのダイバーシティ&インクルージョンのすすめ」と題し、「生物学的な性の成り立ちでは、男女に差はない。戦略としての女性活躍促進を通じた多様性(ダイバーシティ)創出が組織を活性化させる」などと語るとともに、学内保育園の設置や女性



名古屋大の東村副理事による基調講演

研究者のトップリーダーの顕彰など、同大における取組を紹介しました。

後半は、本学の原口弥生ダイバーシティ推進室長が本学の取組を説明し、平成30年度をもって全ての学部で女性教授が誕生したことなどを報告しました。続くパネルディスカッションでは、学長特別補佐(研究・産学官連携)の金野満教授、理工学研究科の飯沼裕美准教授、株式会社日立製作所研究開発グループの吉成清美氏が「女性研究者をいかに増やすか」をテーマに活発な議論を展開しました。

国立研究開発法人科学技術振興機構の山村康子プログラム主管による講評では、「茨城大学は女性エンパワーメント支援制度による科研費の採択率の高さや代替教員の柔軟な配置制度、女性限定公募の実施や女性上位職採用などで非常に高い評価を得ている。残りの期間においても、目標達成に向け、継続して事業を発展させてほしい」と期待が述べられました。

シンポジウムには学内外から教職員や学生など81名が参加し、大学戦略としてのダイバーシティ推進への高い関心がうかがわれました。



パネルディスカッションの様子

国立女性教育会館図書パッケージ貸出サービスによるワーク・ライフ・バランス関連書籍紹介

本シンポジウム開催に合わせ、学内での意識啓発を目的として、国立女性教育会館のサービスを利用した図書100冊を水戸キャンパス図書館にて展示、閲覧に供しました。



contents	■平成30年度の主な行事報告	1・2	■「女性研究者支援・養成の取り組み」意識調査の結果	4
	■平成30年度女性研究者への支援	3	■図書・DVDの貸出について	4
	■私とワーク・ライフ・バランス	4	■編集後記	4
	■ロールモデル集の発行 掲載者のコメント	4		

学長と女性管理職の懇談会

日 時:平成30年11月15日(木) 13:30~15:05 / 会 場:水戸キャンパス 学長室 / 参加者:8名

ダイバーシティ講演会&理系女子交流会

主 催:工学部
共 催:ダイバーシティ推進室
日 時:平成30年12月12日(水) 12:40~18:00
会 場:工学部小平記念ホール
参加者:21名

第1部 12:40~14:10 OG講演会
第2部 14:20~15:00 パネルディスカッション
第3部 15:15~16:45 理系女子交流会
第4部 17:00~18:00 工学部長と女子学生との座談会



全学教育機構 基盤教育科目 公共社会「仕事を考える」

日 時:平成31年1月11日(金) 12:40~14:10
会 場:水戸キャンパス 共通教育棟2号館13番教室 参加者:25名

株式会社リバネス人材開発事業部の環野真理子氏を講師に招き、「未来を作る研究者的生き方の勧め」と題し、今後のキャリアデザインの選択肢の1つとして、研究者の仕事を紹介しました。



公開授業「LGBT:いままで気づかなかった見方や考え方」

日 時:平成31年1月17日(木) 10:20~11:50
会 場:水戸キャンパス 共通教育棟2号館30番教室 参加者:120名

人文社会科学部国際・地域共創メジャー専門科目「国際学概論」において、NPO法人「RAINBOW茨城」会長の滑川友理氏による一般公開の講演会を開催しました。



企業・研究所訪問ツアー

女性研究者のすそ野拡大の取組として、地域性を活かし、県内研究所への訪問ツアーを実施しました。研究施設の見学の他、卒業生を含む研究者・職員との懇談を行いました。

第1回 国立研究開発法人産業技術総合研究所 第2回 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
日 時:平成31年2月14日(木) 10:00~15:00 日 時:平成31年2月28日(木) 13:20~15:30
参加者:14名 参加者:26名



第1回 国立研究開発法人産業技術総合研究所

スキルアップ講座(英語論文セミナー、学術英会話セミナー)を開催しました

講師:吉中昌國先生(㈱アルク・グローバル人材コンサルタント) 主催:ダイバーシティ推進室 共催:URAオフィス

「英語論文セミナー」 水戸キャンパス 日時:平成31年2月13日(水) 10:00~16:00 参加者:5名
阿見キャンパス 日時:平成31年2月15日(金) 10:00~16:00 参加者:6名
「学術英会話セミナー」 水戸キャンパス 日時:平成31年3月13日(水) 10:00~16:00 参加者:5名
日立キャンパス 日時:平成31年3月14日(木) 10:00~16:00 参加者:5名
阿見キャンパス 日時:平成31年3月 6日(水) 10:00~16:00 参加者:3名

今年度は英語論文執筆に必要な文法などの技法を学ぶ英語論文セミナーと、国際学会での質疑応答やポスター発表での会話のコツ、学会でのネットワーク作りに役立つ会話表現を学ぶ、学術英会話セミナーを開催しました。



スキルアップ講座「英語論文セミナー」

平成30年度 第2回茨城大学学術講演会「女性エンパワーメント支援制度利用者による研究成果報告会」

日 時:平成31年2月21日(木) 14:00~14:50
会 場:水戸キャンパス 事務局棟第二会議室 [VCS接続会場]工学部応接室(日立)・農学部第1会議室(阿見)
参加者:24名
報告者:齋木久美教授(教育学部)、布施泰子教授(保健管理センター)

ダイバーシティをテーマにした学長との意見交換会

日 時:平成31年2月21日(木) 15:00~16:00
会 場:水戸キャンパス 事務局棟第二会議室 [VCS接続会場]工学部応接室(日立)・農学部第1会議室(阿見) 参加者:24名



ダイバーシティをテーマにした意見交換会

ダイバーシティ時代のリーダー像を考える:女性リーダー研修

日 時:平成31年3月5日(火) 13:10~16:00
会 場:水戸キャンパス 事務局棟第二会議室 [VCS接続会場]工学部応接室(日立)・農学部第1会議室(阿見) 参加者:35名

茨城大学の女性研究者支援

茨城大学では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の採択を受け、第3期中期目標・中期計画の女性教員比率5%増の目標達成のため、ワーク・ライフ・バランスや女性研究者の支援を実施しています。

◇平成30年度「ライフイベント研究支援員制度」採択者一覧

所属	職名	氏名
人文社会科学部	教授	原口 弥生
教育学部	教授	廣原 紀恵
理工学研究科(理学野)	准教授	飯沼 裕美
理工学研究科(理学野)	准教授	諸岡 歩希
理工学研究科(工学野)	教授	池田 輝之
理工学研究科(工学野)	教授	江口 美佳
理工学研究科(工学野)	准教授	鶴野 克宏
理工学研究科(工学野)	准教授	車谷 麻緒
農学部	准教授	浅木 直美
農学部	准教授	七夕 小百合
全学教育機構	講師	瀬尾 匡輝

(1) ライフイベント研究支援員制度

出産・育児・介護等のライフイベント中の研究者^{*1}に対し、研究支援員を配置し、研究との両立を支援する制度です。

^{*1} 男性の場合、配偶者である女性が大学、大学共同利用機関、独立行政法人で雇用されている教員・研究者、又は大学などが受け入れる日本学術振興会特別研究員(フルタイム)である場合に限りです。

(2) 研究復帰支援制度

出産・育児・介護等のライフイベントのためにやむを得ず研究を一時中断し、その後、研究復帰した研究者^{*1}を対象に、本格的な研究再開のためのスタートアップ支援として研究復帰支援費(研究費)を助成する制度です。

◇平成30年度「研究復帰支援制度」採択者一覧

所属	職名	氏名	研究テーマ
理工学研究科(理学野)	准教授	諸岡 歩希	膜翅目昆虫蜂類における真社会性進化の起源の解明

(3) 女性エンパワーメント支援制度

本学で、教育・研究・社会貢献の分野において活躍が認められ、より高い研究力・指導力向上を目指す女性研究者を顕彰し、研究費を助成する制度です。本研究費をインセンティブとして、女性研究者が学内外において活躍するリーダーに成長することを期待しています。

◇平成30年度「女性エンパワーメント支援制度」採択者一覧

所属	職名	氏名	研究テーマ
理工学研究科(理学野)	准教授	飯沼 裕美	荷電粒子ビームラインにおけるバルブモニター装置開発
理工学研究科(理学野)	准教授	二橋 美瑞子	チョウ目昆虫の体色形成および成翅・鱗粉形成の分子機構の解析
理工学研究科(工学野)	講師	原口 春海	鉄筋製業における人的要因を考慮した作業計画モデル
保健管理センター	教授	布施 泰子	女性医師支援を通じて医師不足を緩和し、医師の過重労働を抑制するための研究

制度利用者からのコメント

平成30年度
ライフイベント研究支援員制度利用
全学教育機構 講師 瀬尾 匡輝

妻が埼玉県の大学に毎日往復4時間かけて通勤しております。2歳になる息子の育児に費やす時間を増やす必要があったため、今年度ライフイベント研究支援員制度を利用させていただきました。育児に対する支援では、女性に対するものが多いなか、本制度では男性も支援が受けられる点が非常にありがたかったです。男性も支援が得られなければ育児に参加することは難しく、結果女性ばかりが育児をしなければならないというような状況に陥る可能性もあります。しかし、本制度のおかげで、私も積極的に育児に参加することができ、結果私も妻も研究に励むことができました。研究と育児の両立は男女を問わず夫婦共通の課題であり、本制度には心より感謝しております。



平成30年度
研究復帰支援制度利用
理工学研究科(理学野) 准教授 諸岡 歩希

2015年夏から産休・育休を取得し、2年半の間に続けて2人を出産し、2018年春に復帰しました。長期間にわたって実験を行うことができなかつたため、実験に使用する試薬の使用期限がきれていたり、試薬のストックを新たに調整しなおしたりする必要がありました。その際に、本制度を利用して必要な物品等を購入し、実験環境を整え、研究を再スタートすることができました。また国際学会で発表を行い、研究成果を報告するとともに、研究に復帰したことを国内外にアピールする機会も得ました。本制度により支援をしていただき、思っていたよりも不安なく研究に復帰することができました。



平成30年度
女性エンパワーメント支援制度利用
理工学研究科(工学野)
講師 原口 春海

茨城県内の中小企業を対象に製造業の作業効率改善に関する研究に取り組んでいます。機械化・自動化が進む現在においても、多くの中小企業は労働集約型の作業を抱えており、作業者の技能は生産性に影響を及ぼすため効率的な作業計画の立案が重要な課題となっています。私の研究では、従来の現場の勘と経験に頼った作業計画を数理モデル化してパソコン上でシミュレーションし効果を検証します。私の研究に興味を示す中小企業様は多いものの、大企業と異なり効果が確約できない共同研究に投資をする体力が無く、なかなか話を前に進めることが出来ませんでした。今回の支援制度のおかげで企業様の負担を抑えて共同研究を開始することが出来ました。

ベビーシッター派遣事業割引券の導入について

平成30年度より、内閣府の委託を受けた公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「ベビーシッター派遣事業制度」を導入しました。本券の利用により、所定のベビーシッター事業者利用時に、一家庭につき、一日あたり2,200円の割引が適用されます。